

かけはし

昭島市立富士見丘小学校 令和 5年 3月16日
校長だより No. 32 稲垣 達也



R3・4 昭島市教育委員会研究指定校 総括

令和5年2月17日(金)、全国から約200名の方々に会場とオンラインでの御参会をいただき、研究発表会を開催することができました。パネルディスカッションでは、それぞれの分野の第一人者の皆様から、貴重な講話をいただきました。皆様に、心より感謝申し上げます。

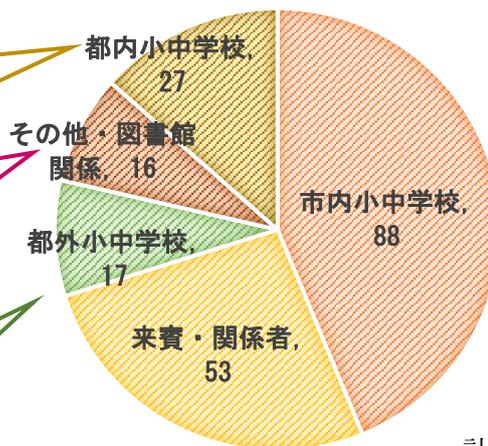
大変遅くなりましたが、当日のアンケートを中心に、今年度の成果と課題、次年度に向けての方向性を取りまとめましたのでご報告申し上げます。詳しくは、学校ホームページをご参照ください。

研究主題の「納得解を導く児童の育成」に向けて、今後も着実に歩んでいく所存です。

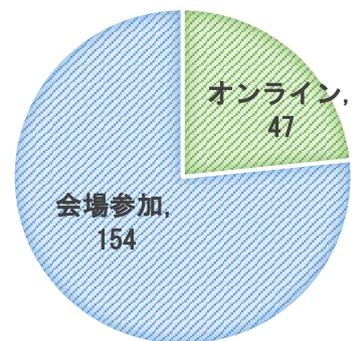
多方面からの御参会をいただきました

- 江戸川区、荒川区、世田谷区、足立区、新宿区、練馬区、豊島区、杉並区、八王子市、日の出町、稲城市、瑞穂町、清瀬市、多摩市など
- 出版社(2社)、神戸市教委、京都市教育センター、長野県・香川県・荒川区・江戸川区等の図書館関係者、大学・大学院、大学図書館、図書館研究
- 神戸市、富士市、厚木市、藤沢市、座間市、大磯町、横浜市などの公立・私立の小中高等学校など

参加者内訳(所属別) 人数



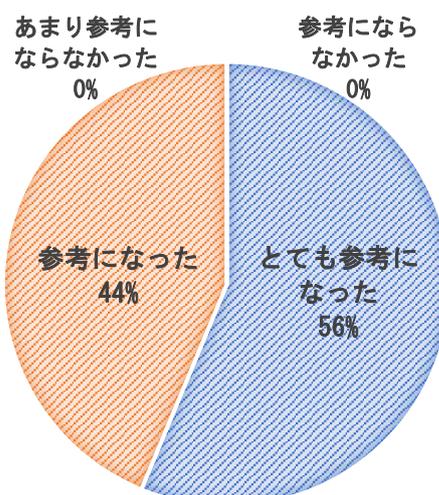
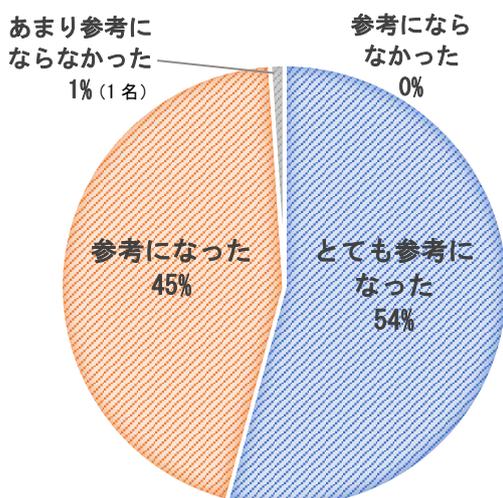
参加者内訳(参加方法) 人数



計201名 他(保護者6名)

アンケートにご協力をいただきました

研究発表会について パネルディスカッションについて



〔発表会や内容全般について〕

- ・新しい発表方法が素晴らしかったです。学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童に育てたい柱となる資質・能力の育成を図られたことが、とても参考になりました。本来はこういう研究こそ、小中を合わせて指定校として、もしくは、中学校区内の小中を地区指定して、同時に研究を進めることができれば、本市のモデル地区が生まれ、子供の連続した学びを成長につながると思います。
- ・「こういうことをやっていいんだ！」自分の固定概念を崩せた発表会でした。おもしろかったです！
- ・「できっこないを、やるっきゃない」という強い思いで、本当に実現させた素晴らしい研究でした。同じ市内に、こんなことができる学校があるんだと驚きです。
- ・事前に配信してくださった授業動画が、とてもよかったです。紙の冊子だけでなく、ハイブリットなど様々な新しい工夫がなされていて、このような発表方法があることを今回学ばせていただきました。
- ・様々な工夫をこらした研究発表会で、とても刺激を受けました。盛会のうちに終わられたこと、OBの一人として嬉しく思います。先生方、本当にお疲れさまでした。
- ・2年間の研究の取組を通して、自らの指導に生かしていきたいことが沢山ありました。子どもたちがよりよく学んでいくことができるよう、私自身が学びを深めていきたいと改めて思いました。
- ・素晴らしい研究内容に感動しました。ホームページにアップされた資料、授業、全てに感謝です。
- ・体系的、系統的な研究で大変勉強になりました。事前にホームページから研究内容を知ることができたので、本日の発表を伺っていて、大変理解が深まりました。
- ・とても充実していました。形式、内容ともに素晴らしかったです。今日の発表で終わることなく、今後の実践につなげていく強い意志を感じました。私もHPを改めて見させていただきます。
- ・発表会には校務のため参加できないことがわかっていたので、事前に動画配信を見られたことが大変有難かった。先生方も、ポイントを押さえられ、短時間ではありましたが、わかり易かったです。
- ・富士見丘小学校の先生方、本当にお疲れ様でした。また、ありがとうございます。大変だったと思いますが、ご自身の力になっていることは間違いのないと思います。先生方一人一人のスタイルに合わせて、こういった学習を今後も続けていただくことを期待しています。
- ・発表当日までの焦点化された動画配信。研究に関連する冊子作成。児童の主体性を補助する様々なツール。どれも参考になりました。一人一人の学びを支える支援が充実していました。
- ・事前に資料や動画配信いただき、とても勉強になりました。できれば、学校図書館の見学や児童の成果物も拝見できればさらに良かったと思います。

⇒ (回答) 2時間の発表会のみで全てはお伝えできませんので、いつでも見学にお越しください。

〔本校としての考察〕

コロナ禍を見据え、いかなる状況下でも大過なく実施できる方法を検討して上での方策をとりました。

【授業動画の事前配信】により、当日の参観では不可能なことを可能としました。全25授業を参観することができる。参観と同時に、授業者の意図などを聞くことができる。同時に、成果と課題など、授業者や分科会としての考察を聞くことができる。

【研究資料のホームページ掲載】により、膨大な資料を、必要な時に、必要に応じて閲覧できるようにしました。紙資源の削減。電子データの加工が可能。常に最新版を更新できる。

【ハイブリット参加】により、時間と場所を問わず、参加できるようにしました。遠方の県を含め、3割以上の方が市外からの参加でした。

【多方面の専門家によるパネルディスカッション】により、多面的多角的なお話をいただき、複眼的にテーマに迫ることができました。

⇒ 時間配分に無理があり、ディスカッションにならなかった点が、最大の反省です。ご期待を裏切り申し訳ありませんでした。



〔研究主題や研究構想・分科会について〕 [HP](#)

- ・主題にとっても共感した。本校の教育を改めて考え直すきっかけになるものでした。今後の研究にも非常に興味がある。引き続きホームページを参考にさせていただきたい。
 - ・研究主題に則した、各分科会の実践や、成果物などが、今後の自身の指導にも活かせるものであった。
 - ・研究主題、副主題から研究の内容、研究の方法について、とても勉強になりました。大きなテーマの実現に向け、明確な目的を持って3つの視点の分科会に分かれ、統合していく。素敵です。
 - ・分科会ごとに様々な実践事例を学ぶことができた。それぞれの「育成する力」を分かりやすく説明していただき、実践と関連して分かりやすかった。日々の積み重ねで付いていく力が多いと思うので、様々な活動を取り入れて力を伸ばしていくことが大切だと改めて感じた。
 - ・教科横断的に、たて糸、横糸で、6年間通して取り組んでいくことが、ことがこれほどの大きな力になるということを知りました。必要な3つの力を改めて認識できて、は異変有意義な時間になりました。
 - ・副主題それぞれを、子供たちに身に付けさせたい力「スキル」として細分化していて、ふじみ探究ノートを見てみたいと思いました。授業配信動画と添付されている指導案など参考にさせていただきます。
 - ・それぞれの分科会の実践の日々が強く伝わってきました。3つの分科会の柱が良く分かりました。体型化、系統化の大切さを参考にしていきます。
 - ・3つの分科会が研究主題に向けて、それぞれに明確なねらいをもち、具体的な手立てを活用しながら、児童および教員が楽しく学ぶことのできる実践が見られ、大変参考になりました。
 - ・学校全体で、目指す資質、能力に向かって、系統的、構造的に取り組んでいることがよくわかり、確実に積み重ねていると思いました。
 - ・「自ら進んで学ぶ」ためには総合的に基礎力を身に付けていく必要を改めて感じました。「学び続ける力」は子供自身の大きな財産になっていくだろうと思います。多岐にわたる研究、お疲れ様でした。
 - ・それぞれの分科会の取組の充実ぶりに驚いた。私たちの調査結果も参照してくださり、感謝申し上げます。Google Docs などを使っていたこと、特に印象に残りました。
 - ・年間を通しての取組を知ることができ、とても参考になりました。ありがとうございました。
 - ・各分科会での仮説への取組が、それ1つでも校内研究として成立する程、深いものだと感じました。各分科会がそれぞれ自立していると「校内研としてまとまらない」「研究に追われる学校になる」のではないかと感じてしまうのですが、その辺りは、どうクリアしてきたのか知りたいです。
- ⇒ (回答) そもそも研究のための研究ではなく、学校の組織力、系統的なカリキュラムマネジメント、教員の資質・能力、指導力の向上等が目的であり、研究というより職務そのものの取組です。

〔本校としての考察〕

学びの基盤となる3つの資質・能力を育むことが、全学年で系統的に実践できた。その学びが結びついて、子供たちの達成感や自信、次への学ぶ意欲につながるなど、主体的、対話的で、深い学びを実現できた。

様々な成果物とともに、分科会で取り組んできた資質・能力育成の系統的な年間指導計画を全学年分〔資質・能力別〕〔教科別〕で作成した。

〔次年度に向けて〕

幾つもの成果物を生み出すことができ、大きな手ごたえを感じているが、成果物はあくまでも手段であり、これらのどのように継続していくか、どう生かしていくか、深めていくかが大切である。

研究のための研究に終わらせることなく、これに基づき実践を重ね、課題を修正しながら改善を図り、レガシーを継承・発展させていく。

2年間で土台作りをした「情報活用能力」「言語能力」「課題解決能力」、次年度は、**これらの力を働かせた「探究的な学び」を深める**ことで、本校が目指す「創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く児童の育成」を実現する。



〔言語分科会について〕 [HP](#)

- ・学校図書館は、国語の授業の関連、総合での調べ学習、図書の時間くらいでしか利用できていなかった。図書館を活用することで課題解決力を育む手段となり得ることを学べた。
- ・ICT タブレットの導入により子どもの本離れがあると感じている。本の良さを改めて考える機会となった。作文や本の活用、ICTの活用を見直し、バランスよく授業をしていきたいと思いました。
- ・短作文ノートで、書く取組み（作文）が1年生から力を積み上げていくことができると思った。学校全体でできることが素晴らしかったです。
- ・特に、学校図書館の活用を中心に思索コンテストや朝の読書等、計画的、継続的な取り組みによって、児童の心の育成していくことは、情報化が進む社会で忘れてはならない学びの要素だと思いました。
- ・学校図書館を学びの中核に位置付け、系統的に整理された学習をされているところがよく分かりました。素晴らしかったです。ありがとうございました。事前に御連絡いただき、資料や動画を拝見させていただいてありがたかったです。どんな素敵な学校図書館なのか、見てみたいと思いました。
- ・学校図書館を活用して身に付けたい力が、こうして見える化されると、一般教員も何の垣根もなく実践できると思います。素晴らしい！
- ・短作文チャレンジ、思索コンテストの取組の効果がどれくらいあったのか知りたいです。教育の情報化ガイドブックはとても素晴らしいと思いました。
- ・私は立場上、言語、課題解決の分科会に注目して、学ばせていただきました。情報活用のプロセスを意識し、思考ツールを活用し、学校図書館の機能を使って授業実践すばらしかったです。学校司書の役割、出典の指導など、もっと知りたいことがありました。
- ・事前に授業の配信があり、一通り見ることで大変良かった。学校司書の働きも知りたかった。
⇒（回答）学校ホームページ [「学校図書館」](#) 等をご参照ください。
- ・言語分科会と課題解決分科会は重なり合う場面も多く、横断型の授業もあったでしょう。詳しい指導案や活用した図書館資料リスト、学校司書との連携についても知りたいと感じました。情報カードの利用や参考文献について動画で確認できず残念でした。
⇒（回答） [ふじみ探究ノート「9：ファイル資料を使いこなそう」](#) 等をご参照ください。
- ・ICT 活用の推進で、タブレットで調べ学習をすることが多くなってしまい、図書館の活用が少なくなってしまいました。単元にもよりますが、その点のバランスの取り方をどのように工夫されているか知りたかったです。
⇒（回答）学校ホームページ [「情報化ガイドブック」](#) の年間指導計画等をご参照ください。

〔本校としての考察〕

いつでも、どの教科の授業でも、どの学年でも、読むことや書くことが習慣化され、言語力育成の視点を踏まえた教育が展開されるようになった。身に付けさせたい4つの言語力を明確にして、年間指導計画に位置付け、**効果的な言語活動を設定**することで、各教科のねらいを深めることができた。学校図書館を活用した授業の実践が蓄積。**短作文**の継続や**思索コンテスト**などの取組みを通して、児童の言語力が向上した。

〔次年度に向けて〕

- ・**学校図書館機能を強化**し、図書館活用年間指導計画に基づき、計画的に授業を展開することで、情報活用力や課題解決力を育てていく。
- ・語彙を増やし言葉の意味を正確に捉えられるようにするために、**辞書、辞典類を充実**させ、必要な時にすぐに言葉の意味を調べるようにする。
- ・タブレットを活用するなど、感想を共有し、よりよい表現を目指す。
- ・話す聞く単元にも力を入れ、**コグトレのSSTを取り入れる**など、互いを認め合い、考えを広げ、深め合うコミュニケーションスキルを高める。



〔課題解決分科会について〕 [HP](#)

- ・ふじみ探究ノートを活用した先進的な研究発表、大変参考になりました。発表の中で先生方一人ひとりの取組みが児童の学力、作文力に直結していく、深い学びになりました。
- ・ふじみ探究ノートを6年間通して学習に活用していくと、児童が自ら情報を活用していく力が身に付いていき、現代必要とされる人材が育成されていくと感じました。
- ・素晴らしい「ふじみ探究ノート」に感心しました。とてもよく出来ていて、このノートの活用は、子供たちの情報活用能力育成等に大いに役立てられると思います。
- ・子どもたちが意図をもって取り組んでいけるためにも、系統性、計画性を明確にすることが重要だと感じました。学年、教科の垣根をこえて、連携を図っていこうと思いました。
- ・校内で「ふじみ探究ノート」を回覧させていただきました。すると、ご覧になった担任の先生方から、職員室ですごい勢いで「これは何ですか!?!」と聞かれました。こんな良いものをどこで手に入れたのか!?!という意味です。まさに今、これから知りたいこと、勉強したいことが詰まっているとのこと。ぜひ購入したいのですが、と言われました。
- ・「一つの学校でこれだけのものを作ったことはすごい!」とたくさんの方から言われました。このノートから、少しずつ「探究」の輪が広がっていくといいなと思います。
- ・「ふじみ探究ノート」届きました。ありがとうございます。子どもたちは、6年間使うのですね。先生方も、子どもたちの記録に基づく指導ができますね。「ノート」は、東久留米市、袖ヶ浦市、荒川区・・・、いろいろな成果を受け継いでいるのですね。時間をかけて、吸収したいと思います。
- ・ふじみ探究メゾット→資料が沢山あり、大変充実していた。実践したいものばかりです。
- ・ノートや取組みについて知ることができた。明日から使えるところで使っていきたい。
- ・ICTの活用の実践具体例、児童の言語力の向上に関しての実践について、大変参考になりました。自身でも取り組んでみたいと思いました。ご多忙の中、発表をしていただき、ありがとうございました。
- ・ふじみ探究ノートの内容が素晴らしかった。1冊分の費用が高いので、市内の子どもたちに還元できるようにしたい。
- ・探究ノートは、教育委員会が取りまとめて、市で作成したものばかり思っていたのですが、たった1校で作成したことに驚愕です。どのように、何年間で作成したのでしょうか?
⇒(回答) これまでの積み重ねの集大成として構想2年、製作半年程度です。今後の活用が肝心です。
- ・簡潔にまとまっていてPPも見やすかった。探究ノートの活用をもう少し詳しく知りたいと思いました。
⇒(回答) 今後、次年度以降、具体的な活用状況を学校ホームページに掲載予定です。

〔本校としての考察〕

今年度は、どの教科のどの学習において探究学習を進めていくことができるのか、模索しながらの取組みであった。

「ふじみ探究ノート」作成し、子供たちの学びの本質を変えるメソッドを盛り込んだ。探究活動の内容や進め方を網羅的に扱える構成とし、探究学習の全体像、学習のゴールイメージをもちながら学ぶのに、大きく役立っている。調べる学習コンクールへの参加は、大きな意欲につながった。

〔次年度に向けて〕

6年間を通して、「ふじみ探究ノート」の系統的に活用し、学び方の引き出しを増やしたり、技能を高めたり、自ら学び方や思考ツールを取捨選択できるような力を付けていくことを目指す。

- ・生活科と総合的な学習の時間を、「探究の時間」と位置づけ、6年間で段階的に身に付ける力を明確にした探究カリキュラムを構築する。
- ・「ふじみ探究ノート」の活用結果を記録、蓄積し、次年度も効果的に活用できる教員向けの指導書として集約する。



〔情報分科会について〕 [HP](#)

- ・「ふじみ探究ノート」や ICT の「教育の情報化ガイドブック」など、様々な年間指導計画が作成されていてすごいと思いました。私も ICT の年間指導計画を活用させていただきたいと思います。
- ・「教育の情報化ガイドブック」には、具体的な方法、マニュアルをまとめることで、教員間の共通理解を図ることができ、児童への効果的な指導につながり、成果も見える形になっているのだと思う。
- ・特に6年間の指導の流れが示されていることで、教員の入れ替わりがあっても学校として積み上げられるものになっていると思った。
- ・「教育の情報化ガイドブック」読み応えがあり、勉強させていただきます。
- ・事前に案内していただいたおかげで「教育の情報化ガイドブック」をじっくり読ませていただきました。全てが富士見丘小学校の実践に基づいていて、表面的な理論だけではなく、実際の授業記録であり、しかも系統的・計画的なものなので、すごいと思いました。市内全校で共有して活用すれば、全校の情報活用能力が大きく伸びると思いました。できれば冊子でほしかったです。
- ・情報分科会の発表について 範囲が広く、多様な視点から指導や計画が必要な情報 ICT の分野について、よく整理されており、系統化されていると思いました。
- ・情報モラル、プログラミングなどの年間指導計画や系統表など、公教育において意図的計画的な教育の実践においての要となる資料であると改めて感じました。本校でも次年度に活かしていきたいと思いません。
- ・また、目まぐるしく変化する情報化社会、GIGA スクール構想に応じた内容になるよう、常に見直し、実態に促したものに常に改善していくことが必須と感じました。
- ・情報モラルの指導がしっかりと考えられており、分かりやすく指導計画がまとめられていた。それぞれの資料がよく作られていた。
- ・Google chrome の活用方法は多く、体育（動画）など授業に取り入れられる実践を知ることができた。そのためには富士見丘小のように全教員がタブレットの活用についてより学ぶことが必要だと感じた。
- ・情報活用能力を高める為に参考になった。
- ・ICT やタブレットを効果的に活用した教育活動について、ICT の強みが活かした研究発表でした。
- ・市内で同じ chrome book を使っているため、発表に出てきた事例の中で、取り入れてみようと思うものが多くあった。
- ・授業のビデオでは、子どもたちが主体的に学んでいる姿がすばらしかったです。
- ・すごい！の一声です。帰ってよく消化したいと思います。

〔本校としての考察〕

子供たちの創造力や新しい価値を生み出す力の育成を目指し、情報活用能力の育成に焦点を当てた。**ふじみスマートツール構想を構築**し、ICT 機器を各教科の見方・考え方を深めるツールとして捉え、子供たちが紙や鉛筆と同じ、文房具の一つとして活用し、学習を深められるように取り組めた。2年間にわたる本校の実践をまとめるとともに、教育の情報化の手引きとして、本校の現時点での全てを一冊にまとめた『**教育の情報化ガイドブック**』を作成。文科省「教員のICT活用指導力チェック」の結果から、この3年間で、本校教員の指導力が確実に向上した。

〔次年度に向けて〕

- ・**基本的操作の習得や ICT 活用**を、いつ、どこで、どのような教材を用いて指導するのか、年間指導計画に具体的に明記して実践する。
- ・全ての教科指導等を通して、「情報モラル教育」や児童の発達段階に応じた「プログラミング的思考」を、**6年間の指導計画に基づき、1年生から系統的に指導する。**



（全体を通して）

- ・平成 10 年の学習指導要領で情報活用能力と図書館の利活用が重視された時から、図書館を学習センターとして生かしていくという発想に興味・関心をもっていました。その流れの中で、今日のパネルディスカッションに興味深く聞かせていただきました。富士見丘小で育てられた子供たちを受け入れる中学校として、子供たちの成長を保障していかなければならない責任を感じます。これからの学校が子供に育成していくものは何かを教員が意識を変えていくことが必要だと思います。
- ・研究の成果が児童の資料によって、感じる事ができた。今後の研究に向けて、目指すもの（やること）を明確にして、自分自身の力になるよう励んでいきたい。
- ・学校の研究発表の進め方の件が面白かったです。研究をやったことで得られる達成感、納得感は教員にとっても児童にとっても重要だと思います。
- ・ノートを見て参考にさせていただきます。共通理解（ゴール）が大事だと改めて感じました。
- ・学校図書館、統計、特別支援、そして学校研究について、全てわかりやすく、今後の指導に役立つ内容でした。明日からの指導に今日の学びを生かしていきたいと思います。
- ・学校図書館、特別支援など普段大切に思いながら、お話を聞く機会が少なくなっていたため、様々な観点からの話を聞いて良かった。「目指す児童の姿に真に迫れているか」改めて考えさせられました。
- ・それぞれの専門的なことを知ることができた。今回授業を見ることはできなかったが、それぞれの先生から具体的な授業やノートの活用を教えていただけて良かったです。
- ・来年度研究発表を行っていくうえで、研究の内容や発表の形式など大変参考になりました。パネルディスカッションでも様々な方面の専門の先生から具体的な話が聞けて良かったです。
- ・多角的に富士見丘小の研究の意義、価値について学ぶことができました。
- ・ディスカッションの質が高く、本校の教育を改めて考え直すと共に、活力をいただくことができました。
- ・研究主題に迫るため、どのような姿を目指すのかについて、しっかりと分析されていて素晴らしかったです。複数の方の話が端的にまとめられ、それぞれの分野の話がよくわかりました。
- ・先生方のお話によって、自分の思考が整理されました。自分が今の教育の中でやっていくべきことは何なのか、わかりました。ありがとうございました。
- ・各先生方が、専門にされる内容を明確な視点をもってお話していただき、大変興味深く学ばせていただきました。富士見丘小の先生方、新型コロナウイルス感染症防止から日常への移行期や GIGA スクール対応への変化の中、学び多き素晴らしい発表の場に参加させていただき、本当にありがとうございました。
- ・(その他、多数の方から)それぞれの第一線の先生方からのお話が伺えて、とても学びが大きかったです。多方面からのお話が聞けて学びとなりました。講師の先生が 6 名、多面的な角度から研究の話聞くことで全て参考になりました。様々な専門分野から色々な側面からの情報が興味深かったです。
- ・先生方が資料を用意してお話くださったので、説得力がありました。画面が一部（スライドの字が小さくて）見にくい部分もあったので、オンライン視聴の方が見やすかったかもしれません。
- ・研究の進め方についてのお話がとても分かりやすかったです。先生方のパワーポイントの資料を手元で見ることができるとさらに良かったと思いました。
⇒（回答）お手元に配信を検討しましたが、通信回線の関係で実現不可でした。HP に掲載予定です。
- ・講師の先生、一人ずつの発表だったので、ディスカッション（講師の先生同士の交流や講師の先生+本校の先生方など）している姿を拝見したかったです。
- ・各論は大変参考になりました。各論がもう少し絡むとパネルディスカッションとして面白くなったかと。会場の質問とお答えがずれているように思えました（興味があっただけに）。
⇒（回答）限られた時間の中で、深めることができず、大変残念に思います。申し訳ございません。（学校図書館の在り方について）
- ・学校図書の意味、扱い方について理解が深まった。児童の成果物、作品を見ることができ、日々の指導に生かしたいと思った。

- ・学校図書館の有用性、可能性について大変勉強になりました。
- ・学校図書館について、データの活用についてなど、初めて知ることが多くありました。
- ・学校図書館経営部が東京都全部に広がっていくためには、もっと環境整備をしないといけないと思います。富士見丘小の活動は勉強になりました。研究発表会をありがとうございました。
- ・学校図書館は本を読む場という意識から脱却しなければいけないと感じました。
- ・恥ずかしながら、学校図書館についてはじめて学びました。

(図書館を活用した探究的な授業について)

- ・探究についてのお話で、国語の分野と算数・数学の分野によって求める力の違いなど分かりやすくお話いただき、参考になった。
- ・また、それぞれの方々のお話で富士見丘小の先生方が実際に行っている、また研究されてきたことを紹介していただき、ともに参考になった。
- ・探究ノート、高校の公社の学習のつながりの話がとても参考になりました。様々な教科でカリキュラムマネジメントが大切であり、児童の学びを深めることにつながるということがわかりました。
- ・「探究」について高等学校の「公共」で定義にされている内容がとても参考になった。
- ・PDCA サイクル、目指すものの共通理解、わかりやすかったです。
- ・学びの基盤を育成するために、学校図書館がとても重要な役割を果たしていることを再確認しました。自身の授業に活かし、また勤務校に今日の学びを持ち帰り実践していきたいと思います。
- ・学校図書館が学びの基盤となり、これからの児童の育成を考えていくことが重要とよくわかりました。特に塩谷先生の「公共」の目指すもの「探究とは」が大切と感じました。
- ・児童が関心のある資料や自作ノートを活用して探究しようという意欲を出していることが分かった。

(言語に関する研究について)

- ・子供の書く力の伸ばし方を(テーマを決めて、200文字以内など)自校や自分のクラスでも実践してみたいと思った。
- ・児童の言語力の向上(書くこと)について、データを明らかにして研究成果を分析、公表して下さり、研究の重要性を改めて認識できました。
- ・研究発表での内容をさらに細かく詳しく聞く中で、具体的な実践を紹介していただけて良かった。特に作文指導に興味深く聞くことができました。
- ・作文の指導が参考になりました。
- ・日頃から読み書きの積み重ね(トライ&エラー)の必要性を痛感した。
- ・言語力向上で取り組まれていた短作文活動に挑戦したいと感じた。今後、私の学級でも実践していこうと思う。
- ・データに基づいて、児童の記述の質が、学年が上がるにつれて高まっていることがよく分かった。
- ・書く研究の分析は興味深かった。スライドの文字がほとんど読めないで、リモートで配信し、自校で見た方が見やすいし、発表校の負担も減ると思う。
- ・変容のデータ分析がわかりやすかった。特に言語力(書くこと)の内容が興味深かった。資料が手元で見られるとより分かりやすかった(スライドが見えにくかったのだ)。

⇒(回答) 近日中に、学校ホームページに掲載する予定です。

(教育の情報化について)

- ・ICTを活用する授業をすることは大切だが、そのためには情報モラルの教育やスキルを身に付ける授業が必要であると感じた。
- ・また、年間指導計画にまとめ、系統的な指導を行う体制を作ることがまずは大事であり、継続した指導を行うことにつながることを実感した。

(特別支援教育の視点から)



- ・どの先生方のお話も勉強になりましたが、特別支援学級の担任として、増田先生の話は、自身の教育活動を振り返るきっかけになりました。児童の強みを活かす支援を大切にしていきたいです。
- ・特別支援の観点からも話が合ったよかった。
- ・このような発表会では、特別支援教育の研究でもない限り、特別支援は蚊帳の外に置かれる傾向があるが、設置校ということだけあって、さすがだなと思いました。
- ・通常の学級においても、特別支援教育の視点がとても大切ですね。

(研究の総括)

- ・学びのコントローラーを子供にわたすという大村先生の言葉が心に残りました。学びを深めるためには、いかに子供が思考を巡らせることができるかだと思います。学校全体で子供たちのどんな姿を目指すのかを明確に共通理解して、研究を進めていくことが大切だと改めて感じました。
- ・研究だけでなく、授業実践を行うにあたって、再現化を大事にシンプルにまとめることが大切という言葉が印象的であった。それにより、子供の頭の中も整理されやすく、子供のためになると思ったため、自分の授業にも生かしたいと思った。
- ・大村先生の話がとても分かりやすく納得できた。シンプルで分かりやすいものが日々の実践に生かやすく、研究としても大切であると学びました。
- ・大村先生の研究授業の基本的考え方をわかりやすく説明していただき、今後の研究の参考になりました。子供のための授業づくりが大切だと改めて認識することができました。
- ・いろいろな専門家の方の貴重なお話を聞くことができ、勉強になりました。特に大村先生のお話が分かりやすく印象に残りました。欲張りすぎず、まずは一つのものを追求していけたらと思いました。
- ・特に大村先生の話、研究が教員の実践を伴うシンプルな構造がよいという話に共感しました。

【本校としての考察】

本校では『子供は未来の守護者』と捉え、「これからの社会を創造し未来を生き抜く子供たちを育成する教育」を展開しています。

この2年間の実践研究は、その土台として、「学習の基盤となる資質・能力」である「言語力・課題解決力・情報活用力」を系統的に育成することを目標に、言語分科会・課題解決分科会・情報分科会を設置し、具体的な指導方法、メソッドの開発に取り組んできました。

発表会でのパネルディスカッションを通して、力強い、たくさんの御助言を賜りました。会場に御参会の皆様、オンラインでご参加の皆様とともに、これからの教育の在り方を考える時間を過ごさせていただきました。心より感謝申し上げます。

本校のゴールは、研究主題の後段にある通り、「納得解を導く児童」を育てることです。探究的な学びを通して、納得解を導く力が付くものと考えました。ただ、この2年間は、さらにその土台となる力、「学習の基盤となる資質・能力」の育成に焦点を当てました。探究的な学びを支える根っ子の部分です。

とりわけ、小学校教育の段階では、基礎・基本、昔風に言うならば、読み書き算数です。また、ICTがいかに進歩しようとも、原点は紙と鉛筆だろうと考えます。子供たちが本に触れる時、紙の質感や匂いを感じながら読むことが、いかに大切か、かけがえのない幼少期に、実感を伴う学びを重ねていきたいと思っています。

そういった教育観、指導観を土台とした上で、次年度以降も、ICTをスマートツールとして更に活用し、学校図書館機能を高め、情報活用力や言語力など「学習の基盤となる資質・能力」の育成を継続するとともに、探究的な学びを深めて深めて参ります。

